

ふるどうぐ
古道具やさんに
集まれ!



～集落支援員のチャレンジ



(↑) 集落支援員が盛り上げ、大賑わいとなったチャリティオークション。売上は全額、赤い羽根共同募金に寄附されました

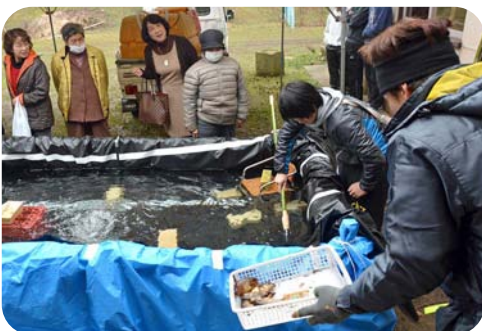
2月2日(日)、あまマーレ(旧慶照保育園)の古道具やさんが新装オープンするのにあわせ、「古道具やさん創業祭」が行われました。

古道具やさんは、島内でモノを無駄にしない仕組みを作るため平成23年に集落支援員(左頁参照)が開いたりサイクルショップです。使われなくなった食器や雑貨を町内の皆さんから引き取って販売していますが、今回のリニューアルを機に販売方針を一新。一つひとつ個別に販売する方法から、専用の箱を500円で購入してその箱に「詰め放題」というスタイルに変更しました。(※タンスなど大きな家具類はオークション形式で販売しています)

また、週1回ではなく年に4回、イベント形式で営業することにしました。子どもからお年寄りまで、より多くの方にあまマーレに遊びに来てもらうことが狙いです。

創業祭では集落支援員の他、高校生や釣り師の皆さんなど応援スタッフ一同が知恵を絞って企画・準備。ヘリウムバ

ループプレゼントやお菓子の詰め放題、映画上映にくじ引き、魚すくいなど、誰でも気軽に来て楽しめるよう工夫を凝らしたことが功を奏し、当日は開店直後から予想を超える大盛況。11時から行われたチャリティオークションには50人以上が集まり、大賑わいとなりました。(上写真)



園庭では金魚すくいならぬメバルすくい！一人5分間、すくった魚は無料でお持ち帰り♪



あまマーレ玄関では海土産野菜を販売。みかんは無料でプレゼント

来場者からは、「楽しかった!」「次回も絶対また来る」「島内のモノがぐるぐるめぐっていることが実感できて、何だか嬉しい」といった声が聞かれました。

海士町集落支援員である寺田理弘さんは、「予想をはるかに超える200人近くの来場者があつて本当に嬉しい。あまマールに初めて来てくれた人も多く、コミュニティ施設を使った多世代の交流ができた。みかんや野菜の生産者さんたちと一緒にイベントできたことも良い体験で、今後に活かせそう」と、大勢を巻き込んで初チャレンジしたイベント運営に確かな手ごたえを感じた様子。



「来場者が多すぎて対応にバタついていたことが反省点。プログラムを組み方を工夫して、より良

いイベントにしていきたい」と、次に向けての意欲も満々です。



町内から集められた魅力的な食器たちが詰め放題



ランチの手作りカレーは無料で提供。隠岐島前高校・地域国際交流部の部員さん達も配膳をお手伝い



くじ引きの1等賞品は、地域通貨50000ハーン!

任務は地域力アップのお手伝い!

集落支援員とは、

地域の課題を住民と一緒にみつけたし、目標や活動計画を一緒に考えたり、仲間を集めたり、地域住民が自分たちで課題を解決していくための支援を行う人たちのこと。海士町では現在、常勤3人と非常勤5人の計8人で、そのうち地元民が4人、イターンが4人です。

平成23年に集落支援員制度が導入されて活動を開始。その前年の調査(※)に基づき、各集落の実態に応じた活性化策を立案してきました。例えば多井区では、

出郷者へ手作りの手紙を発行する支援。また保々見区では、オリジナルの手ぬぐいを作り、お披露目の交流会を行う支援をしました。

役場担当課である地域共育課の宮岡課長は今回の創業祭について、「コミュニティ施設であるあまマール

に人が集まるきっかけとしては大成功。今後多世代で交流できるようにイベントを継続したい」と語っています。

最近、小さい子どもをもつお母さんと「しまばつば(島のおばちゃん)の交流会が開かれるなど、活用方法にも広がりが出てきたあまマール。地域共育課では、「将来的にはあまマールが、子育てサポート施設」として機能するように働きかけていく」とのことです。

古道具やさん運営を含めた集落支援員の活動、そして『交流と助け合いの拠点』としてますますパワーアップするあまマールに、来年度もご期待ください!

(※)人口や高齢化率など客観的指標による調査と、住民ヒアリングによる主観的要素を組み合わせた、総合的な集落診断。



島前高生を含む創業祭スタッフの皆さん、お疲れさまでした!

古道具やさんの次回営業は、引越しのシーズンにあわせて4月頃になる予定です。海士町の皆さん、お楽しみに!

■問い合わせ先

教育委員会 地域共育課

TEL 2・12221